

アラタナ 五ヶ瀬に新会社設立

県内2社と 協力、出資 町産品ネット販売

ネットショップ開設・運営支援を手掛けるアラタナ(宮崎市、濱崎伸次社長)は21日、県内企業2社と協力し、五ヶ瀬町の産品をネット販売する株式会社「あらたな村」を同町に設立した。社長には、アラタナの元社員小野明日香さん(25)が就任。IT技術を活用して農産物の販路を拡大、農業の振興と地域活性化につなげる。

農機具のレンタルなどを手掛けるキング商事(同、白坂勝則会長)、木田建設(高千穂町、木田壮一郎社長)、アラタナの3社が各100万円を出資。昨年10月、「地域を

活性化できるような何かをスタートしよう」と3社で意気投合したことをきっかけに準備を進めてきた。

あらたな村は、町内農家や地域づくりグループと提携して、同社が運営するネットショップで農産物や加工品などを販売。個人客をはじめ、全国の企業をターゲットにした共同購入システムなどを構築し、販路拡大を図る。ネットショップは3月中旬に運営開始予定で、販売手数料とネットショップの広告料が同社の収入源となる。初年度のショップ売り上げ目標は1千万円。

MIYAZAKI BUSINESS

就農体験の企画運営、仲介事業の展開も予定している。

キング商事の山本順仁社長は「異業種ながら地域を元気にしたいというベクトルが同じ方向に向いた。地域活性化の一助になれば」。木田社長は「若い力を地域の活性化に生かしてもらえれば」ともあがたい。バックアップしていききたい」と話す。

農業への思い入れの深さから社長を任せられた小野さんは「就農者の減少や過疎化などを背景にこれからの農業を考えるとき、効率的な販売方法が必要。五ヶ瀬町を皮切りに県内の他市町村でも展開していききたい」と話している。

夏ごろまでに農業の知識や技術を授け、さまざまな参加型ユニティサイトの開設や、

宮崎の異業種3社

規格外農作物ネット通販

IT(情報技術)企業など宮崎県内の異業種3社は、規格外農作物のネット通販に乗り出す。農家がスマートフォン(高機能携帯電話)を使い収穫した農作物を撮影し売値などのデータを入力、消費者は通販サイトに表示されたその農作物を取り寄せられる。農家は通常市場に出回らない規格外農作物を販売することで収入増が見込める。3社はこの通販事業で2014年に1億2千万円の売上高を目指す。

収穫前の注文OK

ITベンチャーのアラタナ(宮崎市、浜渦伸次社長)、建機・農機レンタル関連のキング商事(同市、山本順二社長)、土木建設の木田建設(高千穂町、木田壮一郎社長)が計300万円を出資し、農業のIT化を支援する新会社「あらたな村」を五ヶ瀬町に21日、設立する。

アラタナが開発する操作ソフトをカメラ付きスマートフォンに搭載して

現品を画面で確認

アラタナが3月にも立ち上げる通販サイトの画面イメージ



売値や販売数量、収穫時期などを入力する。アラタナが3月にも立ち上げる通販サイトに表示される。従来のネット通販は収穫後の農作物の画像をサンプルとして表示するなど、実際に配送される農作物が画像のものと異なることもあった。新事業ではサイトの画面に映っている農作物そのものを取り寄せられる。収穫前の農作物の注文もできる。農家も自ら値決めで

きるほか、市場に出回らない規格外農作物をPRして収入拡大につなげる。アパレルなどのネット通販でソフト開発を手掛けるアラタナは農業関連への事業拡大を狙う。キング商事は新規就農者向けに農機レンタルの需要開拓を期待。木田建設は公共事業削減が進む中で農業分野への事業展開をにらんでいる。こうした3社の思惑が一致して新会社を立ち上げる。

新会社は通販サイトのほか、新規就農を促進するため農地情報や作物栽培法などの情報を掲載する情報サイトも今夏をメドに立ち上げる。五ヶ瀬町はコメ、シイタケ、茶などの産地。